

1. 科目名 (単位数)	衛生学 (2単位)	3. 科目番号	EDHE2311
2. 授業担当教員	澤田 晋一		
4. 授業形態	講義を中心に、演習、実習等を導入する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	生理学・解剖学を既習していること。免疫学概論・薬理学・病原微生物学等、関連分野を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解するとともに、それらが健康に如何なる影響を及ぼすかを考え、併せて、子供のときからよい環境衛生条件を維持することが重要であることを認識することを主なねらいとして、人間生活における身近な問題としての環境衛生を理解する。よりよく「生きること」を「衛(護衛する)学問」衛生学は、①生きるための資源、②生きる場(生活の場)、③生きる様式(生活習慣)が、人間の存続、生活生存に影響することに視点を当てている。空気・水・光・土壌・植生・食品、住居・被服・学校・職場等の環境衛生学を核にして、人間生態系にまで視点を広げ、学校教育や就学前教育を支える保育士・養護教諭・保健科教師の専門性の基礎基盤を修得することを目的とする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 人間の生きる力は、環境との相互作用の中で培われていくことを、環境適応能力の発達の視点から理解し、応用することが出来る。 環境の捉え方を包括することが出来る。 衛生学の目的とその意義、歴史的変遷と現代的課題について理解する。 空気、水、光、温熱・気象、食品、土壌、衛生害虫等、人の生活生存に関わる環境の要因を理解し、各種環境基準について実測する。 学校衛生、産業衛生、住居衛生等、生存の場の各種衛生学の具体的内容・基準・法律等の理解とその体系を構築する。 人間一環境系(主体環境系)について理解し、日常生活に活かすことが出来る。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 授業内容の復習のために、適宜提出物を求める。 レポート課題：教科書の各章末に示されたミニ・レポート課題や配布資料のトピックについて考察した内容を1600～2000字程度でまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】辻 一郎・小山 洋 編集『シンプル衛生公衆衛生学 2023』南江堂、2023。</p> <p>【参考書】鈴木路子著『人間環境教育学』建帛社、2017年。</p> <p>森本兼囊(監修)『現代医学と社会—<医学概論>講義』朝倉書店、2005。</p> <p>適宜、配布資料を用いる。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間の生きる力は環境との相互作用の中で培われていくことを、環境適応能力の発達の視点から理解できるか。 環境の捉え方を理解できるか。 衛生学の目的とその意義、歴史的変遷と現代的課題について理解できるか。 空気、水、光、温熱・気象、食品、土壌、衛生害虫等、人の生活生存に関わる環境の要因を理解し、各種環境基準について実測できるか。 学校衛生、産業衛生、住居衛生等、生存の場の各種衛生学の具体的内容・基準・法律等を理解できるか。 人間一環境系(主体環境系)について理解し、日常生活に活かすことができるか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサインメント 30%、 ・レポート 30%、 ・授業態度(質疑応答、授業後の学習達成振り返り調査) 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>少子高齢化が世界で最も進んでいる日本において保育士・養護教諭・保健科教師を志す人は人間一環境系の健康問題に常に敏感になることが必要である。新聞などのメディアが報じるニュースをよくチェックし解決策を考えてみよう。あなたが考える予防対策がこれからの日本の将来を決めるかもしれない。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>[講師は次のことを実行する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	衛生学とは? 健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解を深める	事前学習	教科書の「衛生学・公衆衛生学序論」を読んでおく。
		事後学習	衛生学の目的、意義、歴史、健康問題の変遷について説明できる。

第2回	人間環境系のとらえ方を基盤にした人間の生活生存のあり方を考える	事前学習	教科書の「環境保健」の章の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	人間の環境をどうとらえ、理解したらよいか考察する。
第3回	自然環境と人工環境に対する人間の適応と健康－生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、文化的適応	事前学習	配布資料を読み、適応の原理とメカニズム、適応不全・限界について調べておく。
		事後学習	適応の種類と適応不全について説明できる。
第4回	生体機能の周期性変化（日周リズム、年周リズム、リズムの脱同調による健康障害）と生気象（生体機能の季節変動、季節病・気象病）	事前学習	配布資料を読み、生体リズムと生気象とは何か理解しておく。
		事後学習	生体リズムの脱同調による健康障害、気象病について説明できる。
第5回	環境保健：人間の環境とその評価 （1）化学的環境要因（環境中の化学物質とそれらの健康への影響）	事前学習	配布資料と教科書の「環境保健」「産業保健」の章の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	化学的有害要因の健康問題について説明できる。
第6回	環境保健（2）物理的環境要因（暑熱・寒冷の健康への影響と温熱ストレス・ストレインの測定評価法）	事前学習	配布資料と教科書の「環境保健」「産業保健」の章の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	暑熱・寒冷障害、温熱ストレスとストレインとその測定法について説明できる。
第7回	環境保健（3）物理的環境要因（騒音・放射線の健康への影響と測定評価）	事前学習	配布資料と教科書の「環境保健」「産業保健」の章の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	騒音、電離・非電離放射線の健康影響について説明できる。
第8回	環境保健（4）生物的環境要因（主な病原体と感染経路）	事前学習	配布資料と教科書の「環境保健」の章の該当箇所（生物的環境要因－微生物を中心に）を読んでおく。
		事後学習	主な病原体と感染経路について説明できる。
第9回	環境保健（5）生物的環境要因（主な感染症と予防対策）	事前学習	配布資料と教科書の「主な疾病の予防」の章の該当箇所（感染症の予防）を読んでおく。
		事後学習	感染症の成り立ちと一次・二次・三次予防について説明できる。
第10回	環境保健（6）空気・水・土壌の衛生（大気汚染、水質汚濁、廃棄物、公害）	事前学習	配布資料と教科書の「環境保健」の章の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	大気汚染、水質汚濁、廃棄物、公害の代表例について説明できる。
第11回	環境保健（7）衣食住の衛生（アレルギー、食中毒、シックハウス）	事前学習	配布資料と教科書の「環境保健」の該当箇所（衣食住の衛生）を読んでおく。
		事後学習	衣食住による健康問題（アレルギー、食中毒、シックハウス）について説明できる。
第12回	学校・職場の環境衛生（学校環境衛生基準、労働安全衛生基準）	事前学習	配布資料と教科書の「学校保健」と「産業保健」の該当箇所を読んでおく
		事後学習	学校と職場の環境衛生基準について説明できる。
第13回	母子保健（1）母子保健の水準（出生、死産、死亡等）と課題）	事前学習	教科書の「母子保健」の章の該当箇所（母子保健の水準）を読んでおく。
		事後学習	母子保健の指標と課題について説明できる。
第14回	母子保健（2）乳幼児の脳とこころ、身体の発達と生活環境要因	事前学習	配布資料と教科書の「母子保健」の章の該当箇所（母子保健の課題）を読んでおく。
		事後学習	乳幼児の脳とこころの発達メカニズムについて説明できる。
第15回	生活習慣と人の健康：生活習慣病 期末のまとめ：課題レポート提出と発表	事前学習	配布資料と教科書の「疾病予防と健康管理」の該当箇所（健康増進）を読んでおく。課題レポートの作成。
		事後学習	健康な生活習慣とは何か、生活習慣病について説明できる。 衛生学で学んだことの中で最も興味を持った内容を振り返る。
期末試験			